九建日報
2017（平成29）年12月12日

最優秀に徳永佳子さん

夢アイデア交流会'17開催

建コン九州

（一社）建設コンサルタンツ協会九州支部（福島宏治支部長）は9日、福岡市内で「夢アイデア交流会2017」＝写真＝を開催した。交流会では1次審査を通過した提案者が、自らの夢アイデアについて熱くプレゼンテーションし、審査の結果、徳永佳子さんが発表した「いつまでも自宅で元気に暮らせるために～便器のないトイレ!?」が最優秀賞に選ばれた。

建コン協九州支部によるこの取り組みは、「夢のような話を、本気でしよう」をキャッチフレーズに、毎年、広く一般からアイデアを募集しているもの。

交流会の冒頭、福島支部長があいさつ、夢アイデアのスタートの経緯を説明するとともに、「今年の応募作品のキーワードは『連携』『絆』『元気を取り戻す』等の言葉だった。言い換えれば、皆さんはこれらの単語が持つ言葉のチカラに、欠乏感を抱いているのではないでしょうか。そうした夢のようなアイデアをこの場で大いに語り、一緒に具体化の夢を考えていきましょう」と会場に呼び掛けた。

今年の募集には、36の提案が寄せられ、この日のプレゼンテーションでは1次審査を通過した10のアイデアについて提案者から発表が行われた。また、それぞれの発表の都度、提案者と審査員や会場との間で質疑応答が交わされた。

プレゼン後、審査が行われ、最優秀賞に太宰府市在住の徳永さん（自営業者）の提案を選ぶとともに、優秀賞には耿舒圓さん（九州大学工学府都市環境システム専攻修士2年生、中国海南島出身）の「お国自慢交流会を、老人会の方々を対象に開催する」と、國武のぶ子さん（会社員）の「ちくごプラージュ」を選定した。

最優秀賞の徳永さんは、トイレの際に介護が必要な人が便器に座りやすいよう、体を回転する必要のない、立った位置に横から便座が現れる構造などを提案した。

講評では、各審査委員が「アイデアの多くが社会や地域と繋がっていくことを真剣に考えており、頼もしく思う」、「プレゼン後、文書で見た時点から評価が増した提案もあった。実体験を通した提案は言葉にチカラがあり『言霊』のようなものを感じた」等と評価。

また、審査委員長を務めた玉川孝道氏は、最優秀賞の提案について「生涯を通じた排泄の話は、何気ないようだが、人間の尊厳に関わる切実な課題。介護をする人、される人にとって夢のアイデア。その思いが、専門的・技術的に突き詰められ、いつの日か叶っていくことを願っている」と講評した。

提案発表会後の懇親会では、表彰式が執り行われ、福島支部長から各受賞者に賞状等が手渡された。